

# あたらしい視点で見る、 香港の姿



機能的で洗練された街が、重層的なエコシステムを形作る香港。モノクルでは、ビジネス、テクノロジー、アートなどの世界で活躍するプレイヤーに注目し、彼らがこの街を愛してやまない理由を探りました。まず理由に挙げられるのは自然環境ですが、なかには驚くような答えも。あるホテルのチーフはテニス、あるギャラリストはフェリー航路と、それぞれお気に入りの香港があるようです。

[brandhk.gov.hk](http://brandhk.gov.hk)



# 多彩な魅力あふれる、 アジア屈指の高層都市

アジアでのプレゼンスを確立したい企業に対し、香港は独自のプラットフォームを提供し続けてきました。これからの10年間もそれは変わらないでしょう。経済の核となる4本の柱(1~4)を支えるのは、テクノロジーの迅速な導入と徹底的な改革です。それと同時に、クリエイティブな柱(5~8)も生まれ、この街の伝統という強みを活かし、幅広い機会をもたらしてきました。



# 6

## デザイン

香港で存在感を増す、新進気鋭のデザイナーたち。接客業で使われるインテリアをはじめ、彼らの技能は多岐にわたります。この街にあるデザイン会社をすべて合わせると、そのオフィス面積は世界最大規模。安全で清潔、活気にあふれるオフィス環境を作るため、クリエイティブチームが知恵を出し合っています。ハードな仕事だけでなく、楽しみも盛りだくさん。香港のアウトドアを散策すれば、インスピレーションが自然と高まります。この街で働くクリエイターたちに、新鮮なアイデアをもたらしてくれるのです。



# 1

## 金融サービス

香港といえば、まず思い浮かぶのは国際金融センターとしての顔。750万もの人々が行き交う活気あふれるこの街は、巨額の投資資本が集まり、世界最大の証券取引所を擁する、世界に名だたる金融街です。その脈々と連なる金融の歴史に新たなテクノロジーを組み合わせることで、成長産業であるフィンテックのための枠組みを生み出しています。規制改革と、世界中から集まる優秀な人材。これは金融・保険業界のスタートアップにとって大きなメリットであり、あるCEOは香港を「デジタルバンキングの街」と評しています。



# 7

## ファッションとテキスタイル

香港で財を築いたサクセスストーリーは、多くが繊維産業で生まれています。この街と服飾業界は切っても切り離せません。素材の調達や製造を行う国際的なブランドに加え、地元のクリエイターたちも自身のブランドを立ち上げています。さらに、ファッション専攻の卒業生たちも商業的援助を受け、世界のファッションショーで作品を発表。若い世代が伝統あるレーベルを率いる一方で、ラグジュアリーなアイテムに第二の生を与えるブランドも登場しています。とはいえ、変わらないファッションもあります。香港では、変わらないように見えることに価値があるのです。



# 2

## 貿易と物流

多くの輸入品や輸出品が集まり、貿易の中継地として名を馳せてきた香港。その特色は今も健在です。あらゆる物や人が動き続けるこの街は、世界中に商品を送り届ける方法を知り尽くしています。貨物が入り出る空港は世界有数の取扱量を誇り、コンテナ港では大型トラックが四六時中行き来しています。また、ここでは船も商品の一つ。香港は、この地域有数の高級ヨットの売買拠点としても知られています。昔から変わらず、香港の最大の強みは地理。世界の人口の半分が、ここから空路で5時間以内の所に住んでいます。

# 4

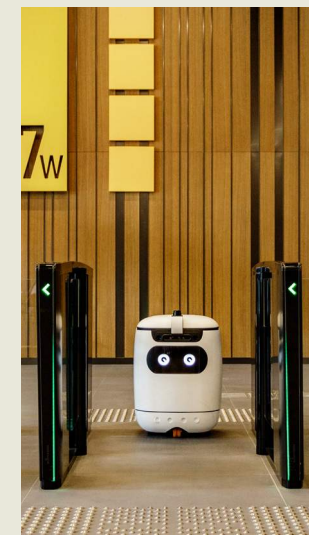
## ビジネスとプロフェッショナルサービス

香港の住民は、金融業界で働く人ばかりではありません。弁護士、会計士、エンジニア、建築家も数多くいます。香港のプロフェッショナルサービス産業は、その専門性でアジアの中でも突出しています。中国本土への投資や進出を狙う外資系企業が香港にやってくるのは、信頼できる法制度があるからです。また、数多くの留学生たちを惹き付ける一流の大学もあります。香港は教育に多額の投資をしており、教室の外で学ぶのに適した自然環境も魅力です。

# 3

## 観光

香港の住民やオフィスワーカーに質の高いサービスを提供し続ける、ホスピタリティのエキスパートたち。海外からの旅行者が安心して戻ってくるのを待ち望んでいます。国際色豊かなシェフやレストランが無数に存在し、多くのごちそうが作り出されている香港。舌の肥えた住民たちは、常に新鮮なコンセプトを求めています。5つ星のサービスは、常に香港の得意分野の一つに数えられてきました。この街で大きな比重を占めるホテル業界では、どんな時でも最上級のおもてなしがモットー。これからも宿泊や食事に訪れる人を喜ばせ続けるため、プランを練っています。



# 5

## 科学とテクノロジー

さん然と輝く銀行や金融の陰に隠れがちですが、科学とテクノロジーの土壌もしっかりと持っている香港。今、これらの業界の結びつきが強まっています。バイオテクノロジー企業が株式市場で研究資金を調達する一方、起業家たちは研究者と協働して、研究室で生まれた発明をマーケットに売り出しているのです。これまで香港の強みだった製造やハードウェアに加え、ロボット工学も新たな成長分野となっています。

# 8

## アートと文化

国際的なアート市場としての名声を確立した香港ですが、さらに多面的な魅力が生まれつつあります。地域のあちこちで、さまざまなアーティストのスペースやクリエイター集団が登場しています。また、この街のアート愛好家たちが待ちわびているのが、Kowloonにオープン予定の、世界級の現代アート・デザインミュージアムです。香港では各国のキュレーターや業界プロフェッショナルたちが住居やキャリアを築き、その文化に対しても確かな鑑賞眼を育てています。この現代的な摩天楼都市において伝統遺産は高く評価されており、昔ながらのフェリーも根強い人気です。



# フィンテックの隆盛

成長著しい香港のフィンテック業界には、他の市場に優る大きな利点があります。一流の金融機関が持つ権威と、パワフルな起業家精神が独自に結びついていることです。代表例をいくつかご紹介しましょう。



## トラストブルー

「トラストブルー」と呼ばれる色で特別に作られた、Moxバンクのカード。香港のネオン、そしてMoxバンクの親会社であるスタンダードチャータード銀行のコーポレートカラーを表現しています。



## 古い銀行、新しい技

### Moxバンク

香港の銀行界に君臨する、スタンダードチャータード銀行。香港ドル紙幣の発行元として最も歴史ある銀行であり、現在も存在感を保ちながら、スタートアップの創設も行っています。Moxバンクは2020年9月に開業し、過去1年間で創業したネット銀行は8行に及びました。「私たちは、スタンダードチャータードの未来の経営モデルを構築しているのです」と語るのは、MoxバンクのCEO、Deniz Güven（写真）。トルコ出身の銀行家であり、元バスケットボール選手という経歴の持ち主です。2017年に金融管理局が全面改革を実施すると、香港にインターネット専門の金融機関が続々と誕生しました。Moxバンク設立にあたり、シンガポールから移住してきたGüvenはこう言います。「香港はアジアの中でも先駆けて、一大デジタルバンキング市場となるでしょう」

## 支払いプラン

### Octopus

世界を代表する公共交通機関の決済方法として1997年に始動したOctopusは、コンビニやファストフード、その他小売業にも進出を果たしています。「Octopusで香港外に進出することが、私たちの長年の夢でした」とCEOのAngus Lee（写真）は言います。近いうちに、中国本土の地下鉄ネットワークでもOctopusが使われるようになるかもしれません。アジア各地の交通システムのICカードに進出する日もそう遠くはないでしょう。



## 便利なプリペイド式

香港では、カードまたはスマートフォンで1日あたり1500万件のOctopus決済が行われています。スピーディで便利な「タップアンドゴー」テクノロジーは、QRコードのスクリーンよりも好評です。この街にはタクシーや生鮮市場など、現金払いが主流の場所もわずかに残ってはいますが、2020年7月に始まった新たな取り組みがOctopusの普及を後押しするでしょう。

## 犬と暮らす

### OneDegree

Kwun Tongにあるペットフレンドリーなビル、Fun Tower。このフロアの一角を占めるのが、保険のスタートアップのOneDegreeです。かつての工業地帯からビジネス街へと変貌を遂げたこの地域では現在、アクサやAIAグループといった老舗から、OneDegreeのようなオンライン専門の新規参入組まで、数々の保険会社が拠点を構えています。かつては銀行員だったCEO兼共同創業者のAlvin Kwok（写真）は、Eコマースなどの新しいライフスタイルトレンドを熱心に開拓しており、消費者が気に入らなかった商品の返送料をカバーする保険は好評を博しています。2020年4月に発売されたペット保険も、新たな成長分野です。「香港、台湾、日本では、幼稚園児や小学生よりも犬や猫の数の方が多いのです」と、愛犬のゴールデンレトリバー、QQと戯れながら語るKwok。OneDegreeは台北にもオフィスを開設（こちらのスタッフは猫を飼う人の方が多いとか）。中国本土、シンガポール、タイにも事業を拡大中です。



## 人材の宝庫

遠く離れたアメリカやオーストラリア出身のスタッフも多いOneDegree。世界中からフィンテックの人材を集め、ゼロから会社を立ち上げたAlvin Kwokに言わせれば、「それこそが香港の強みです」。



## 私の香港

### Lawrence Chu、Oriente共同創業者

銀行口座がない中小企業でも買い物客がクレジットカードを使えるようになるOrienteのサービスは、東南アジア全域で拡大しています。香港のOriente本社に勤務する共同創業者のLawrence Chu（写真）は、現代アートの熱心なコレクターという顔も併せ持ちます。最近、Chuと妻のNatalieは所有するアートの一部を売却し、アーティストのための助成金と住宅プログラムの資金に充てることに決めました。「私たちはアートに参加する新たな方法を模索しているのです」。午前中に訪れたサザビーズのオークション会場でChuはそう語ります。40歳の彼はロンドン駐在中にアートの収集を始め、2005年に香港へ帰還するまで収集を続けてきました。自宅にあるギャラリーは若手アーティストの作品が中心で、香港を拠点とするFirenze Lai、Stephen Wong、初期のChris Huenらの作品が並びます（4人のChuチルドレンと呼ばれる、さらに若い画家の作品も含む）。

# 貨物のゾーン

港やハブ空港として、またアジア全土から陸送される商品の終着駅として、昔から栄えてきた香港。恵まれた地理を活かして、貿易の中心地としての地位を築きました。また、人や物のデジタル化への移行に有利な場所でもあります。キープレイヤーの何人かに話を聞きました。



## 広がるパノラマ 香港国際空港

世界で最も多くの航空貨物を扱うハブ空港、香港国際空港。稼働しているクレーン車の数を見る限り、今後も取扱量が益々増加するでしょう。今後数年間、既存施設のセントラルアジアハブから、Eコマース大手のアリババグループが支援する巨大な新物流センターまで、竣工予定のプロジェクトが目白押しです。香港空港管理局商業部のエグゼクティブ・ディレクターを務めるCissy Chanは、2024年に完成予定の第3滑走路により「キャパシティの面で大きな飛躍を遂げる」と語ります。貨物量の多さは、パンデミックの最中でも変わりません。キャセイパシフィック航空などの事業者が世界各地に必需品を運んでおり、その影響で近年は貨物輸送機の数も増えています。また、このハブ空港では生鮮食品や医薬品の輸送量も増加しており、これらはEコマースと並ぶ長期的な成長分野です。Chanの言葉です。「香港から飛行機に乗れば、5時間以内に世界人口の半数がいる地域に到達できます」

### クール・ランニング

香港国際空港は、温度管理が必要な商品や農産物の取り扱いに関して、国際航空運送協会から複数の認証を取得しています。貨物用エプロンでは新型の保冷ドローリー（車輪付き冷蔵庫）の1団が飛行機とターミナルを行き来し、高額な医薬品や生鮮食品を運んでいるのです。



### 私の香港

Mike Simpson,  
Simpson Marine

英国出身のMike Simpsonが初めて香港に上陸した時に乗っていたのは、長さ11メートルに及ぶ自作のヨットでした。それから35年以上が経った今、この元軍人の冒険家は1970年代のデイクルーザー「ウィンディ22」に乗り、ラマ島の自宅からAberdeenのオフィスに通っています。通勤時間はドック・ツー・ドックで20分ですが、「天気良ければですね。沖合で台風が発生すると、もう少し時間がかかります」

Simpsonの会社はアジア最大級のヨットディーラーで、アジア各地にオフィスを構え、ベネトウやサンロレンツォなどヨーロッパのヨットブランドを扱っています。76歳の彼が今後楽しみにしているのは、Hainan島のSanya。最近、自由貿易試験区に指定されたことで成長の期待が高まっているのです。「中国市場が発展する上で大きな影響があるでしょう」



### 穏やかな港

この街に住み始めた1984年に乗っていたヨットにちなんで、Simpsonは新しい帆走ヨットを「ドミノ2」と名付けました。「香港は、私たちにとってこれまでで最も大きな市場であり、最も長い歴史を持つ街です」

### 寄航港

#### 水辺のダイニング

香港でオープンしたばかりの最も特別なレストランは、どこにあるでしょう？何と、Tsing Yi島の倉庫の中なのです。10月に開店した「ランブラー」は、世界トップクラスの取扱量を誇る港をクレーン車が行きかう中、伝統的な広東料理、ヘルシーなサラダ、エスプレッソベースのコーヒーを提供しています。この小ざれいなカフェテリアは、デザイン事務所のA Work of Substanceが設計しました。食事をとるのはトラックやフォークリフトの運転手など、物流施設「グッドマン・インターリンク」で働く1000人以上の作業員たちです。ここはオーストラリアの不動産開発業者、グッドマン社が香港の11か所に構える倉庫の一つ。さらに2か所の建設が進んでおり、Tuen Munに完成予定のグッドマン・ウエストリンクは、新設される海底トンネルで空港と直接行き来できるようにになります。



おいしいものが至るところで見つかる香港。一流のレストランやホテルで働くシェフたちは、舌の肥えた香港人たちを満足させるべく研鑽を積み、カジュアルなお店も負けてはいません。香港では、シェフはどれだけいても多すぎることはないのです。

### チームプレイヤーたち

#### BaseHall

ランチタイムで地下のフードコートに人が集まるのは、アジアのどこも同じ。でも、BaseHallが一味違うのは、料理でさらなる高みを目指そうと、新しいコミュニティの概念を取り入れている点です。Centralのオフィス街に立つ超高層ビル、ジャーデン・ハウスの地下に新たに作られたフードコートには、香港で一番ホットな個人経営のレストランが軒を連ね、絶品料理を提供しています。

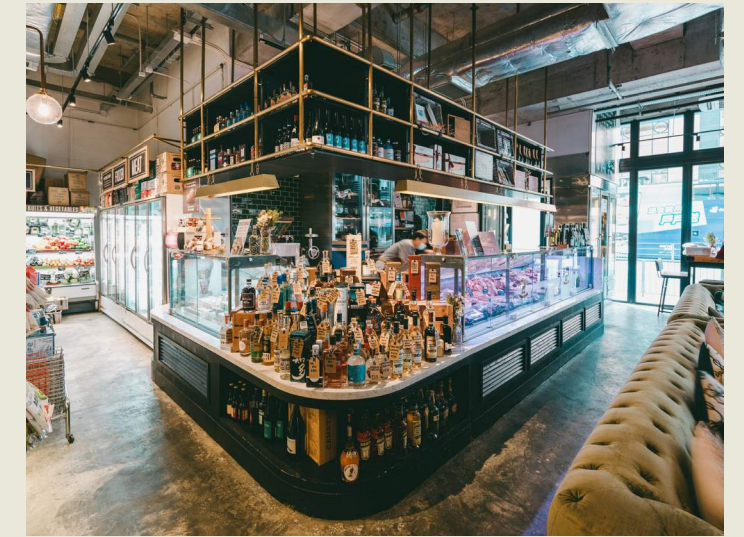
SohoのTREEHOUSEでは野菜のラップサンドが、Sheung Wanの焼き鳥の名店ヤードバードが手掛けるROTI TORIではロティサリーチキンが食べられます。さらに、韓国料理のMOYO SIKや、タコスのWESTSIDE TAQUERIAといった世界各地の屋台が集結。メキシコ料理の名シェフ、Esdras Ochoaも腕を振ります。ニューヨーク出身のWill Fangが手掛けるCookie Departmentではスイーツを提供し、深夜まで営業しているバーではマンダリン オリエンタルのスタッフがコーヒーやカクテルを作っています。

BaseHallの仕掛け人は、Hongkong Land (HKL)のシニアアセットマネージャーのTom Andrews。「飲食業者の参入障壁を低くし、クリエイティブなコンセプトを一流の場所で試せる、そんなプラットフォームを作ることを目指しました」



#### BaseHallを支えるチーム

1. **Nick Chan**  
ROTI TORI共同創業者
2. **Alex Huels**  
マンダリン オリエンタル飲食部門およびBaseHall Barディレクター
3. **Lindsay Jang**  
ROTI TORI共同創業者
4. **Matt Abergel**  
ROTI TORI共同創業者
5. **Tom Andrews**  
Hong Kong Landシニアアセットマネージャー
6. **Pamela Yeung**  
Hong Kong Landアセットマネジメントオフィサー
7. **Melody Ho**  
Hong Kong Landアシスタントプロパティアナリスト
8. **Wil Fang**  
Cookie DPTオーナー
9. **Francesco Lee**  
Moyo Sikオーナー
10. **Jon Chan**  
Westside Taqueria共同創業者
11. **Alice Stevenson**  
Hong Kong Landアシスタントアセットマネージャー
12. **Brian Woo**  
Co Thanhオーナー
13. **Christian Mongendre**  
Treehouseオーナー



### 私の香港

#### Toby Smith スワイヤホテルズ副会長

2008年創業のスワイヤホテルズは、香港の2か所にホテルを構えました。一つはAdmiraltyに位置するラグジュアリーな「ザ・アップパーハウス」。もう一つは東部のTaikoo Shingにある、ゆったりした広さが魅力の「イースト」です。「私たちは、隅々まで心配りが行き届いたホテルを作ったのです」と語るのは、1991年にスワイヤのコングロマリットの一員となったToby Smith副会長。英国人の彼は最初の赴任地シドニーでテニスを始め、世界各地で働いたのち、ラケットと共にたどり着いたのが香港でした。現在は日本、韓国、オーストラリアでホテルの建設地を探しています。「私たちには素晴らしいブランドがあります。もっと多くの人に知ってもらいたいです」



#### 世界を望む窓

飲食業界における3つの注目スポット

香港のホスピタリティに参入する起業家たちは、顧客に負けず劣らず旅を重ねます。彼らが外国から取り入れた3つのメニューを味わえば、アジアが誇る世界的都市の成功の秘密が見えてくるはずですよ。

1. **朝食: Baked, Sheung Wan**  
Zahir Mohamedは南アフリカ移民6世のパン職人。50年前から受け継いできたサワー種が入った瓶とともに香港へ移り住み、2018年にBakedをオープンしました。
2. **コーヒー: Fineprint, Tai Hang**  
オーストラリア人のScottie CallaghanはFineprintの共同創業者であり、熟練のパリスタでもあります。健康志向の強い香港人のために朝早くオープンし、夜にはくつろいだ雰囲気のあるバーに変わるお店です。
3. **ディナー: Hansik Goo, Central**  
Hansik Gooのシェフは、ソウルのレストラン「Mingles」で名を馳せたMingoo Kang。韓国の伝統的な家庭料理とストリートフードが自慢です。

### ミートマーケット

#### Feather & Bone

香港で地元の肉屋さんとして存在感を高めているFeather & Boneは最近、New Territoriesにも進出し始めました。創業者のPaul Daleyの狙いは、母国である英国の肉屋さんを再現すること。「ワインやコーヒーも飲めるような、特色ある肉屋さんを作りたいです」と語るDaleyは、デリ、食料品店、オールデイダイニングなどに事業を拡大してきました。「香港で15店舗を目指しています」と話す彼がその先に見据えるのは、タイ、ベトナム、中国本土への進出です。最近ではSai Kungにお店をオープンしたばかりで、Sean Dix設計のクッキングスタジオが熱い注目を集めています。

#### オーダーメイド

「どのレストランにもお肉のカウンターがあり、そこで選んだステーキを目の前で調理してもらえます。私たちのサービスの特徴の一つです」と語るのは、事業部長のMark Chan (写真)。「この地域はシーフードレストランに関するコンセプトが独特で、それらを再解釈して色々な形で取り入れています。お客様は自分が選んだ魚やカキを調理してもらい、食材の原産地も見ることができます」

# 鋭い知性

## 教育と研究

### Swire Institute of Marine Science

香港には海洋公園が6か所ありますが、科学的研究のため保護されているのは1か所のみです。香港島の南東に位置するCape D'Aguilarには岩石露頭の保護区があり、香港大学のSwire Institute of Marine Science (略称: Swims) の所在地でもあります。1990年に開校したSwimsは現在、拡張工事中です。2021年初めて竣工予定の新しい校舎には、屋内・屋外のアクアリウムやダイブロッカーがあり、実験用のラボは装置や薬品を使うウェットラボと、コンピューターを使うドライラボの2種類を備えています。さらに重要なのが、新鮮で良質な海水がふんだんにあること。「これほど上質な海洋研究センターが熱帯にあるのは、とても珍しいことです」とSwimsのディレクター、Gray A Williamsは言います。Williams (写真) は1989年、Swimsの開校に合わせて英国から香港に移住。以来ここで働き続け、2003年にディレクターに就任しました。そんな彼のグループが今取り組んでいるのは、極端な環境が軟体動物に及ぼす熱的影響についての研究。海水温の上昇にともない、国際的に関心が高まっている分野です。

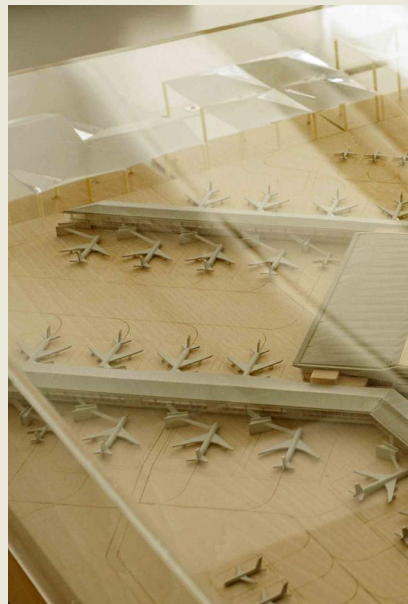
「実にダイナミックで、生物多様性に満ちた環境ですよ」とWilliams。中国の海域に香港が占める割合はわずか0.03パーセントにもかかわらず、中国の海洋生物のうち約25%が香港に生息しているのです。現地で研究生生活を続ける大学院生たちもおり、たくさんの国から学生が集まっています。「夏の間、私たちの住まいは海外から訪れる人で一杯になります」とWilliams。ここで働き始めて30年が経った今、彼は香港各地のラボや事務所と協力して、Swimsをアジアのハブにすることに取り組んでいます。



## ルールブックを書き換える 3つの法改正

イノベーションと法曹界は、あまり関係がないように見えるかもしれませんが、信頼のおける香港の法制度は、時代の流れとともに変化しています。

- 1. オンライン紛争解決 (ODR) : オンラインで解決**  
香港にはアジア有数の紛争解決センターがいくつかあり、現在はそのプロセスがオンラインに移行しています。eBRAMセンターでは6月にオンライン紛争解決プラットフォームを立ち上げ、企業が国境を越えた商事紛争解決のために外国へ行く必要はなくなりました。調停や聞き取りをオンラインで実施することで費用と時間を節約でき、司法へのアクセスも促進できます。
- 2. 新しい特許制度 : 新斬なアイデア**  
香港では新しい特許制度が2019年12月に開始されました。これまでは標準特許を申請する際、まず香港外で所定の特許庁に特許登録する必要がありましたが、今は香港で直接申請できるようになりました。この制度ができたことで、香港では発明に対する法的保護が受けやすくなり、知的財産取引の拠点としてのアピールポイントにもなっています。
- 3. 中国本土の玄関口 : 開けゴマ**  
中国本土の玄関口という特有の役割を担う香港。そのためか、外資系企業を惹き付けてやみません。2003年に中国本土・香港経済連携緊密化取決め (CEPA) が締結されて以来、本土の市場に通じる扉は大きく開放されてきました。このCEPAのもと、サービス協定が最近改訂されたことで、中国本土と香港の間のサービス取引はさらに規制緩和が進んでいます。



## 建築

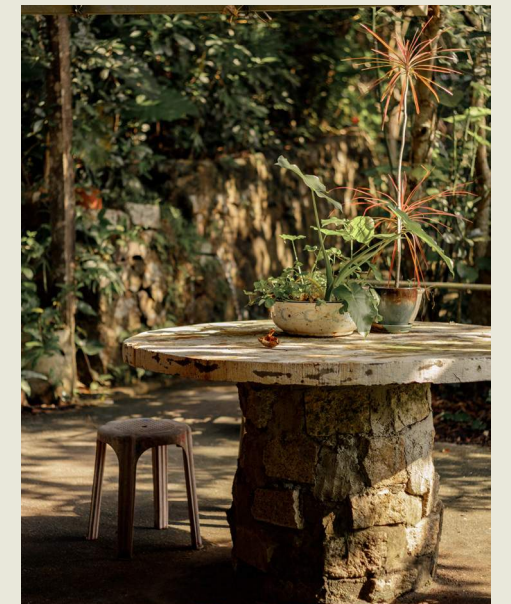
### インテグレイティッド・デザイン・アソシエイツ

2018年にセブ島の空港にターミナル2がオープンすると、その熱帯樹を使用した建物はフィリピンを訪れる人々を驚かせ、数々の賞を獲得しました。設計したのは香港人のWinston Shu (写真)。このデザインはアジア各地の空港にも新風を吹き込みました。「セブ島のターミナル2以前は、現地の文化を織り込む方法といえば、現地アーティストの作品を使うことでした。ただそうした建築では、その土地の特色が伝わりません」と語るShuは、建築家のNorman Fosterの下で働いた後、1999年に独自の空港設計手法を確立しました。「やがて私たちは、地域の特色を空港の建築物に取り入れたらどうなるだろう、と考えるようになりました」

## 私の香港

### Jenny Quinton Ark Eden創業者

Jenny Quintonが香港を訪れたのは1989年、チベットへの旅の途中でした。それ以来ずっと、香港にとどまり続けています。Lantau島のMui Wo北部で人里離れた溪谷のとりこになり、そこに住むことを決めたのです。教師として勤めていた学校を14年前に退職したQuinton (写真) は、Lantau島の小屋で独自の環境教育活動を始めました。Ark Edenは彼女が環境教育と持続型農業を行うためのセンターであり、森の中の学校でもあります。「環境教育を強化しなければ、地球を守ることはできないでしょう」と語るQuintonは、過去25年間で香港原産の木を3万4000本以上植樹してきました。「私にとって香港は、現状を打破できる場所なのです」



## リアリティ・テック

## ホットリスト

## SinoMab Bioscience

バイオテクノロジーは、香港の巨大ビジネスに成長しつつあります。2019年、SinoMab Bioscienceは地元のバイオテクノロジー企業として初めて香港証券取引所に上場しました。収益がなくても株式公開を可能とする前年の規則変更のおかげで、新たな資本注入により研究開発資金を調達できたのです。「パズルの欠けたピースがはまりました」と語るのは、2001年にSinoMabを創業したShawn Leung博士（写真右端）。現在は証券取引所のバイオテクノロジー諮問委員会に所属し、新しい上場制度のもとで上場申請の審査を支援しています。香港サイエンスパークにある自身のラボで「香港はアジアのバイオテクノロジーの中心地となるでしょう」と語っています。SinoMabの科学者はがんなどの病気の治療法を研究しており、代表的な製品が関節リウマチ治療薬です。現在、SM03という薬が臨床試験の第三段階に入っており、有効

性が立証されれば世界初の治療法となる可能性があります。「これは私たちにしかできないことです」とLeung。自らの会社を世界的な大手に育て上げ、免疫疾患治療にイノベーションを起こしたいと考えています。



科学者はややもするとスポットライトを浴びたがらないかもしれませんが。しかし香港のたくましい商業界はラボの科学者たちと手を組み、有益な発明で世界に打って出ようとしています。インパクト抜群のプロジェクトをいくつか取材しました。



Q&A  
Hugh Chow  
Astri CEO

2020年に20周年を迎えた、香港応用科技研究院（Astri）。香港をスマートシティ化し、人工知能やサイバーセキュリティといったテクノロジー分野で企業を優位に立たせることを目的に、政府が設立した組織です。技術畑出身のHugh Chowは、2018年からCEOを務めています。

Astriが取り組んでいるスマートシティ構想とは、どのようなものですか？

私たちはMTRと協力して、鉄道イノベーションの共同ラボを立ち上げました。MTRほど大規模な公共交通機関は他にありません。テクノロジーの力でMTRをより速く、より安全に、より効率的にすることは、私たちにしかできない仕事です。あるプロジェクトは5Gネットワークの開発を伴うため、センサー、カメラ、探知機すべてを接続するのに役立ちます。

Astriのプロジェクトが一般の香港人の目にとまるのは、どのような時ですか？

人々が私たちの仕事を目にするのは、中国工商銀行のモバイルバンキングポータルでしょう。具体的に言うとチャットボットですね。チャットボットはどこにでもあります。私たちのチャットボットはミックス言語で設計されています。

それはなぜですか？

香港では、さまざまな言語が入り混じって使われています。通りを歩くと、ほとんどの広東語話者が英語混じりで話していますよね。そのため、一部のチャットボットや音声認識ツールは役に立たないことがあるのです。



## スマートなパッケージ

## Ecoinno

おいしいコーヒーを飲んだり、一杯のラーメンをすすめるために、地球を犠牲にするべきではない。これがGeorge Chenの信念です。「自分の出したゴミがどこへ行くか誰も知らないし、気にも掛けない」とEcoinnoの共同創業者であるChenは言います。同社は香港を拠点とする、堆肥化可能な食品包装資材のメーカーであり、使い捨てプラスチックの需要を減らすことを目指しています。「非常に大事な問題なのに、人々は受け入れてしまっ

ている。もっと良いやり方はないかと、自分自身に問いかけました」

思いついたのは、香港サイエンスパークにある研究所で、環境に優しいセルロース由来の素材を開発することでした。Ecoinnoが生み出した自然系植物由来の繊維「グリーンコンポジットマテリアル」（GCM）は、プラスチックより温度耐性が高く、75日以内に100%生分解が可能です。香港のTai Poにある生産施設では、GCMを使用した食品容器やコーヒーカプセルが作られています。2020年、アリババグループが主催する「ジャンプスターター・コンペティション」でEcoinnoは5組の受賞者に入り、アリババ・アントレプレナー・ファンドの出資を獲得しました。Chen（写真）が率いるチームは現在、イタリア最大のコーヒーサプライヤーと協力し、香港の大手航空会社とも提携。生分解可能な食品容器を機内食向けに提供しています。「科学に不可能はありません。既存の枠組みにとらわれない発想が必要なんです」とChen。



## 私の香港

## ライス

ロテル・アイランドサウスのサービスについて、宿泊者が「ロボットの」と評したのなら、それは褒め言葉です。炊飯器にちなんで名付けられた「ライス」がスタッフに加わったのは、今年初めのこと。人の腰ほどの高さのロボットは、開閉式の頭部にカプチーノや温かいクワッサンを入れて配膳し、ファンを獲得していきました。仕事は夜明け前のルームサービスから始まります。これはライスのお気に入りの業務。静かな通路をさっそうと横切り、無人のエレベーターに乗って上の階や下の階へ。ホテルが本格的に動き出す前の時間なので、移動もスムーズです。高感度の筐体と360度の視界は、宿泊客やスーツケース、時には走り回る子どもの間を縫って動くのに適しています。2時間の充電が終わると、おやつを持って到着した宿泊客にご挨拶。一緒に写真にも収まります。宿泊客の間で大人気のライスにあやかり、ホテルはロボットをテーマにした夏のステイケーション（遠出せず近場のホテルなどで過ごすこと）を始めました。



## ロボティック・デリバリー

Rice Robotics創業者のVictor Leeの願いは、多くの自律型ロボットを製造し、ホテルや病院などのサービス産業で活躍させることです。

## イノベーション・ハブ

香港サイエンスパークはロボット業界をサポートするため、2020年にロボットキャタライジングセンターを開設。Rice Robotics社の移転にともない、ライスは施設の顔として契約を結びました。





#### オフィスビル

Moira Moserは国境を越えてオフィスからオフィスへ飛び回るのが常ですが、最近Wan Chaiのオペレーションを監督しています。香港では5つ目の拠点となるこの場所は、クライアントに紹介する前のコンセプトを実験するためのラボとなっています。



#### 清潔第一

##### M Moser Associates

M Moser Associatesは世界最大のオフィスデザイン会社の一つで、21都市で1000人以上のスタッフが働いています。カリフォルニア出身のMoira Moser（写真）が香港で会社を立ち上げたのは、オフィスのパーティションが流行していた1981年でした。今や快適なオフィスを生み出す最新のイノベーションは、目に見えるものではありません。自社オフィスに設置された高品質の空気濾過・浄化システムを紹介しながら、Moserは言います。「ここは香港で最も清潔なオフィスの一つです」。建築家としてキャリアを重ねてきたMoserは、統合的なアプローチに誇りを持っています。すなわち、インテリアデザイナーやストラテジストが、エンジニアや技術者とともに働くということです。最近では安全な環境作りに投資するクライアントの間で、空気の質に対する関心が高まってきました。Moserは物理的な職場のこれからについても自信があります。といっても、パーティションが復活するわけではありません。「職場から消えなかったものは、人との交流です。アイデアやイノベーションを生み出す人々にとっては欠かせないものですから」



#### 電球が照らしだす時間

##### Lasvit

照明デザインを専門とするLasvitを創業したチェコ人のLeon Jakimic。留学のため香港にやって来たのは1999年のことです。その後も香港にとどまり、5代続く家業のガラス製造をベースに、現代的なテクノロジーとデザインを組み合わせた会社を立ち上げました。「香港にとどまって学んだことを活かすのは、自然な選択でした」とJakimic。同社が作り出すオーダーメイドの照明設備やガラスアートは、ザ・ペニンシュラ香港やショッピングモール「K11 MUSEA」など、香港でもとりわけ華やかな場所で目にすることができます。



#### 私の香港

##### NC Design & Architecture 創業者 Nelson Chow

ウォータースポーツにぴったりの入り江や島があるSai Kung。パドルボードから落ちこぼる初心者たちを尻目に、冒険心旺盛な人たちはウィンドfoil（サーフボードとウィンドサーフィンが一体化したスポーツ）で水上を疾走します。デザイナーのNelson Chow（写真）は、2年前にSai Kungでカヤッキングを始めました。「新しいことに挑戦するのが好きなんです」と語るChowは、季節を問わず、週末は必ずカヤックに乗ります。「至る所に新しい発見があり、自分のペースで見つけることができますから」。Salt Islandはカヤックで往復3時間ほどで行けるため、人気のスポットです。43歳のChowはそこにスタジオを構え、会社で親睦を深めるための小旅行を主催したばかり。ニューヨークで働いた後、2011年にNC Design & Architectureを立ち上げました。バーやレストラン「Fogsglove」、コーヒーショップ「Fuel Espresso」など、香港市街を代表する憩いの場をいくつか手掛けています。NC Design & Architectureは2021年に10周年を迎えます。これからも中国本土やマカオでの新しいホスピタリティプロジェクトや、サーカスをテーマにした香港のナイトクラブなど、数多くのオープン予定が控えています。





# 普遍的なスタイル

ファッションビジネスの成功を後押しするあらゆる要素が揃っている香港。由緒のあるテーラリングの高い技術から、若いデザイナーへの充実したサポート体制まで充実しています。もちろん、香港の人たちのファッション感度が高いのもポイントです。



## ヴィンテージの掘り出し物

### Vestiaire Collective

Vestiaire Collectiveはファッション界の流行の仕掛け人ではないかもしれませんが、中古のラグジュアリーアイテムのオンライン販売においてはパイオニアです。社長のFanny Moizantは2009年にパリで会社を共同創業し、アジア進出のため2017年に香港に移住しました。「香港はアジアのラグジュアリーアイテムのハブですから、このエコシステムに参加することに興味がありました」と、Wong Chuk Hangに構えたオフィス兼倉庫で、Moizant (写真) は語ります。その後、Vestiaire Collectiveオーストラリア支社を立ち上げたMoizantは、韓国と日本への進出も計画中です。「私たちは信頼とインスピレーションを持ち込むことで、中古品の世界に波紋を広げたかったのです。そして突然、素晴らしいものが生まれました。それが、人々が参加したくなるようなコミュニティだったのです」



### ラグジュアリーな中古品

Vestiaire Collectiveではデザイナーものの中古品を販売することで、消費者が出費を抑え、服が長く着られるようにしています。



### ちょっとお出かけ

3軒のおすすめショップのブランドをピックアップ

#### 1. ウィメンズウェア：B/major

「靴のデザインと聞いて、香港を思い浮かべる人は多くないでしょうね」と語るデザイナーのGrace Laiは、2019年に夫のLeo ChanとB/majorを立ち上げました。「そういった先入観を覆して、美しく高品質で手頃な靴を作りたかったんです」

The Mills, Tsuen Wan

#### 2. メンズウェア：ONS

「香港にはおしゃれなブランドがたくさんあるのに、あまり注目されていません」と語るONS創業者のBrian Chungは、ニューヨークでもお店をオープンしたばかり。「才能ある人たちの育てて、世界の舞台に送り出したいと考えています」

Landmark Men, Central

#### 3. ユニセックス：Lane Eight

「だいたい1日で4足の靴を履き替えます」と語るJosh Shorrocksは、サステナブルな素材を使い、兄弟のJamesとともにスポーツ用からオフィス用までさまざまな靴をデザインしてきました。

St Francis Street, Wan Chai



## 私の香港

### Christopher Owen, Thirty30 Creative共同創業者

Christopher Owen (写真右) が妻とともにデザインスタジオThirty30 Creativeを立ち上げたのは2015年。ブランドアイデンティティを確立し、アジア各地でマーケティングキャンペーンを展開しました。英国人の彼は、シャツメーカー「アスコット・チャン」に勤める友人のJustin Changの助けを得て、独自のスタイルの追求に惜しむことなく投資しています。アスコット・チャンは1950年に創業した生粋の香港テーラーで、アメリカや中国本土にも店舗を構えています。クリケットを愛し、香港にある12チームのうち一つでキャプテンを務めるOwenにとって、香港の暑い夏にリネンのズボンは必須アイテムです。「自分にぴったり合ったスーツを着ることで生まれる自信というものがあります」とOwen。仕事着やクリケットのユニフォームを着ていない時の彼は、家族とPrince Edwardのフラワーマーケットで植物を買っていたり、Shui Poの路店やお店をのそいでいたりしています。

### 成功の系譜

#### テーラリングの歴史

アスコット・チャンの3代目後継者、Justin Chang (上)。是非お試しあれ。その他おすすめのお紳士服店はこちら。

#### 1. Attire House

8 Wyndham Street, Asia Pacific Centre, attire-house.com

#### 2. WW Chan & Sons

30 Queen's Road Central, Entertainment Building wwchan.com

#### 3. The Armoury

12 Pedder Street, Pedder Building thearmoury.com



## 注目のレーベル

### Ffixxed Studios

ファッションデザイナーのFiona LauとKain Pickenが2010年に香港でFfixxed Studiosを創業したのは、ベルリンから香港に移住してすぐのことでした。「文化の異なる所へ移住したことで、たくさんのインスピレーションが生まれました」とPicken。「香港の力強いキャラクターが、私たちのブランドの雰囲気に反映されています。古いものと新しいものがせめぎ合う、濃密で変化に富んだ特質です」。2012年にはLauが香港ヤングデザインタレント賞を受賞。最近まで二人は香港デザインセンターのインキュベーションプログラムに参加していました。「小さな会社でも、多くのチャンスやサポートが得られるんです」とPicken。政府から資金提供を受けたFfixxed Studiosは、6年連続でパリ・ファッションウィークでショーを行っています。二人で2021春夏メンズウェア・ウィメンズウェアコレクションを発表した上海で、Pickenは「どんな場所においても、私たちは香港と強く結びついています」と語っています。



### 人財の宝庫

Ffixxed Studiosは2015年の第1回クリエイティブ・クールアウトで最優秀ブランドに選ばれました。このコンペティションは、才能ある若手クリエイターを発掘しようと、香港でファッション小売を展開するレーンクロフォードが毎年開催。同社は2020年で創業170年を迎えます。

# クリエイティブ・ハブ

香港は高層ビルが立ち並ぶだけでなく、数多くのギャラリーもあります。また、工場を改装して、アーティストのスタジオとして親しみやすく生まれ変わった場所も。そうした場所をいくつか訪れ、ビジュアルカルチャーの新たな美術館として開館が待たれるM+のキュレーターに話を聞きました。



制作中  
英国人アーティストのDamian Boylan (左)、HARTディレクターのJeannie Wu (中央)、アメリカ人アーティストのShane Aspegren (右)



## クリエイティブな転換 Hart Haus

Kennedy Townに位置し、かつては工場だったHart Hausは、21人のアーティストの拠点となっています。マンチェスター出身のアーティスト、Damian Boylanは、航空エンジニアとしての経験を活かして多彩な分野で活躍中。アメリカ人のShane Aspegrenはキーボードで作曲を行っています。Centralにある姉妹ギャラリーのHart Hallで初開催された展覧会に参加したAspegrenは、「Hausians」と呼ばれる4人のアーティストの一人です。「私たちの主な基準は、文化と芸術を媒介し、その両面で多様性を持つことです」と語るのは、Hart Hausを支える非営利芸術組織のディレクター、Jeannie Wu。中国人のビジュアル・サウンドアーティストのCassie Liuhは、学校卒業後の2019年に加わりました。Liuhは言います。「一番すばらしいのは、ここにいる人たちです」



## 私の香港 Nadia Ng, Perrotin ディレクター

2020年中頃、フランス現代アートギャラリーのPerrotinは、ヴィクトリア・ハーバーの対岸からKowloonに移転しました。ギャラリーの移転にともない、ディレクターであるNadia Ngの交通手段も変わりました。100年前から運航しているトラムに乗るのをやめ、さらに古く趣のあるスター・フェリーを利用しています。

Ng (写真) 曰く、「こんな古き良き交通機関を利用できるなんて、すごく幸運です。こんな乗り物、シンガポールにはありませんから」。シンガポール人の彼女は、いつもWan Chaiの埠頭から10時発のフェリーに乗ります。最短距離のルートなら約0.3ユーロの格安料金で乗れますが、港を縦断する時間はわずか数分。2017年に香港へ移住し、Perrotinで今のポジションに就いたNgは言います。「フェリーに乗っている時間ももっと長ければいいのに」

## グランド・オープニング M+

アジアのアート業界は2021年に劇的な変化を迎えるでしょう。ビジュアルカルチャーをテーマにした新しい美術館、M+が香港にオープンするからです。ニューヨーク近代美術館で勤務していたDoryun Chongは、2013年に香港へと移ってきました。「私たちのミッションの一つは、グローバルな視点を持った美術館であることです」とソウル出身の彼は言います。「また、香港に根付き、刺激を受けることもミッションの一環です。これほど国際的に開かれた都市ですから」

Chongが率いるチームは、美術館の常設コレクションを17000平方メートルのスペースに展示します。1950年代から現在に至るビジュアルアート、映像、デザイン、建築など、8000点近い作品群は現在も増え続けています。M+の中でも最高峰のシグ・コレクションは、個人から寄付された1500点の作品群で、中国現代アートにおいて最も重要なコレクションの一つです。



水平に広く  
スイス人の建築家ユニット、Herzog & de Meuronが設計したM+は、印象的なレイアウトに仕上がりました。M+の副ディレクター兼チーフキュレーターのDoryun Chongは、M+を「徹底的に平らな空間」と表現します。美術館にある33の展示室がほぼワンフロアに配置され、従来のギャラリーとは一線を画しました。



## アートとコーヒー Shophouse

トングラウと呼ばれる、エレベーターのない低層ビルがひしめくTai Hang。Causeway Bayを背景にした閑静な住宅街で、午後のコーヒーを楽しむ人や、早々と一杯ひっかけた人たちが集います。Shophouseはそんなトングラウに、ギャラリーやショップとしての新たな一面を加えました。2020年5月にオープンし、個展やグループ展、多彩なアート、ファッション、デザイン、骨董市などのプログラムを入れ替わりで開催しています。創業者のAlex Chanの思い出は、子どもの頃に連れられて行ったのみの市で、アンティークの魅力に取りつかれたことです。過去にはヴィンテージのタイプライターや1980年代のユニフォームなどの展示を行いました。展示の内容にかかわらず、Second Laneには立ち寄る価値があります。2階に上がると、香港の戦前の建築物を垣間見ることができるのです。建物は丹念な改修を経ており、人造大理石のフロアが芸術作品のような雰囲気を出しています。



2020年、モノクルでは10軒目となる事務局兼ショップがWan Chaiに設立されました。これまでの10年間でモノクルが賞賛した、香港にまつわる10のこと。

## 2010

### 高まるコミュニティの共生

第37号では、Sheung Wanの住民たちに取材。今も変化に富むこの地域は、近隣のSai Ying PunやKennedy Townにも影響を与えています。

## 2014

### 土台を作る技術と文化

高層ビルの建設は、まず専門職人が同じ長さの竹で足場を組むことから始まります。彼らの師弟関係について第76号で取り上げました。

## 2011

### 見渡す限りのアート作品

2013年に始まったアートバーゼル香港は、世界中からコレクターやディーラーが集まるイベント。第44号では創始者のMagnus Renfrewにインタビューしました。

## 2015

### 大都市の胃袋

ランチタイムを大事にする香港では、外食することが生活の中心。Ho Lee Fook (第82号) では、モダンなアレンジを加えた広東料理を提供しています。

## 2012

### 歴史的遺産を活かす

Tai Oの警察署をリノベーションして作られたホテルは、香港で次々と行われている改修プロジェクトの先駆けです。第56号で詳しく取り上げました。



## 2019

### アイデアの宝庫

建築家たちは小学校を作る際に面積を有効活用するため、教室のある建物を高床式にして遊び場や駐車場のスペースを確保しました(第121号参照)。



## 2016

### 高層ビルから低層アパートまで

Causeway Bayの高層ビル群のすぐ隣にあるTai Hangの村(第93号)。トングラウと呼ばれる低層建築はクリエイターたちを魅了し、New Territoriesの村の住みは家族連れを惹き付けています。

## 2013

### 家族という大ビジネス

同族会社に新鮮なアイデアをもたらす新世代の一人、新世界發展CEOのAdrian Chengに第64号でインタビューしました。

## 2017

### 陽気なシーズン

第109号でご紹介したように、港湾沿いに立ち並ぶ高層ビルには、年末のクリスマスから旧正月の後まで照明が飾られます。

## 2020

### 注目を一身に集めて

第132号では、広告機会が少ないのはいかに香港的で、100年前からビジネス街をたどるトラムさながらだとお伝えしました。

# 2018

### 安全性のはるかな高みへ

子どもが一人で地下鉄に乗って通学する姿は、この街が安全であることを示す象徴の一つです。また、山で負傷したハイキング客を救出した政府飛行服務隊(第113号参照)のヘリコプターチームにも、それが表れています。

